

自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト

平成24年度事業報告



地域交通安全マップをつくる

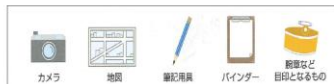
○標準的な全体の流れ

ステップ1「事前指導」→ ステップ2「電線図」→ ステップ3「現地の調査」
→ステップ4「地図の作成」→ ステップ5「発表会」

①現地の調査（街や通学路）

危ない場所の特徴が理解できたら現地調査に出かけます。危ないことが起こりやすい場所がないか点検する。（名所旧跡、文化財、草花、保存物等も調査しておく）

◆持っていくもの <用具の絵をそれぞれ入れる>



別の点検で「危ない場所」「安全な場所」を写真で撮り、地図に記録します。
写真撮影の際、プライバシーの侵害につながらないように注意する。

<安全な場所>



丁字路にカメラがあり、左右から車が見えるので安全

車がたたく人通り道に歩道橋がかかっているので安全

平成25年3月

(一財) 日本交通安全教育普及協会

はじめに

子どもにとって自転車は、歩行に次ぐ交通社会における第二のステップであります。自転車は、手軽で利便性の高い交通手段ではありますが、交通事故の被害者にも、また加害者にもなりうる危険性を秘めています。平成 24 年において自転車乗用中の死傷者は 12 万 9 千人、うち 15 歳以下の者は 16.7%を占めておりますが、法令違反があった者は全体では 63.7%、15 歳以下の者では 71.8%と他の年齢層より特に高くなっています。

こういったことから、自転車に乗り始める段階から、子どもたちに危険予測能力を高め、安全行動・危険回避行動がとれるよう教育することが必須であります。またこの教育が成果を挙げ得るためには、地域における関係者や地域住民が連携し一体となって推進していく必要があります。私ども一般財団法人日本交通安全教育普及協会は、こういった観点から、自転車の安全教育に力を注いでいるところであります。

この一環として、当協会におきましては、平成 19 年度から埼玉県におきまして、全国のモデル事業として、「自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト」事業を実施しております。この事業は、幼稚園・保育園、小学校の幼児・児童やその保護者を対象として、地域の学校、警察や関係機関・関係団体が一体となった参加・体験型の自転車交通安全教室を行っているもので、幼児や児童が保護者と共に自転車の安全な乗り方を学び、危険予測能力を函養し、安全行動・危険回避行動を向上させること、またこの事業に地域の方々が協働することを通して安全で安心できるコミュニティづくりに貢献することを目的としております。

平成 24 年度におきましては、埼玉県の 10 か所の幼稚園・保育園・小学校におきまして幼児・児童及びその保護者を対象に「自転車安全教室・自転車点検教室」を開催いたしました。また、この事業に地域のリーダーにも参加していただき、地域における指導者の養成にも努めました。

また、埼玉県の小中学校の教員を対象にした「自転車交通安全指導者研修会」の実施、「地域安全マップ作成の手引書」や「新・安全教育指導プログラム」の作成などを行ないました。

平成 24 年度の事業を実施するに当り御協力を頂きました関係者の皆さまやブリヂストンサイクル株式会社に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成 25 年 3 月

一般財団法人 日本交通安全教育普及協会
専務理事 川口 雄

目 次

はじめに

1. 事業の概要	1
2. 自転車交通安全教育推進委員会	5
3. 事業の内容と考察	9
(1) 自転車交通安全教室の実施	
(2) 自転車啓発パンフレットの作成配布	
(3) 交通安全教育の授業研究会の実施	
(4) 地域交通安全マップづくりの指導マニュアルの作製	
(5) 調査研究委員会の開催	
(6) 事業の考察と課題	

1. 事業の概要

1. 事業の概要

◆事業の目的

近年、交通事故死者数や交通事故件数は減少傾向にあるものの、全交通事故に占める自転車事故の割合は依然として高く、自転車をめぐる交通情勢は厳しい状況にある。

本事業では、自転車が最初の身近な乗り物となる小学生に対して、自転車の安全な利用の仕方を学ぶ交通安全教育を推進すると同時に、地域での指導者養成を図りながら、地域全体の自転車運転技能やマナーを向上させ、安全・安心の街づくりに包括的に貢献することを目的とする。

◆テーマ

地域を核とした小学生への自転車交通安全教育の展開と体制の確立

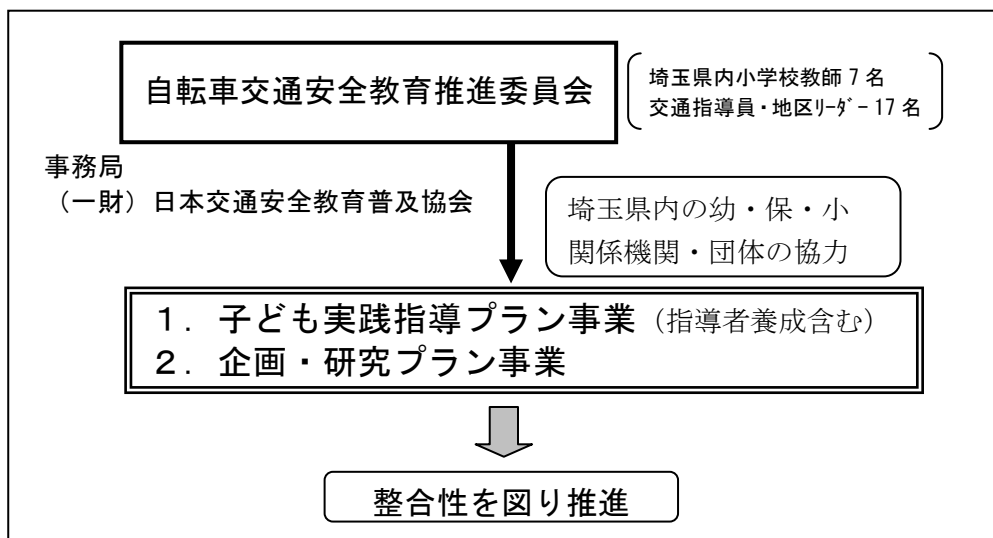
◆事業の背景

- ・自転車利用者が守る「ルール・マナー」態度が悪化（子供～大人）
- ・自転車事故が増加傾向（加害者：小学生 被害者：高齢歩行者）
- ・躰の一環とした小学生からの交通安全教育が重要

◆具体的目標

- ・地域を主体とした指導カリキュラムと体制の確立
- ・地域内での自転車事故削減と交通安全意識の向上

◆実施体制と事業



2. 自轉車交通安全教育推進委員会

2. 自転車交通安全教育推進委員会

◆目的

本委員会は「自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト事業」（以下「本事業」という）の円滑且つ効果的な推進を図ることを目的とする。

◆事業

本委員会は、上記 1 の目的を達成するために次の事業を行う。

- ①委員会を開催し、必要な事項の検討等を行う。
- ②小委員会（調査研究委員会）の開催
- ③必要に応じて「本事業」への指導、協力、視察等を行う。
- ④その他、本委員会の目的達成に必要な事業を行う。

◆小委員会（調査研究委員会）

本委員会は、上記 2 の事業を推進するために、必要に応じて調査研究委員会を設置し、次の事業を実施する。

- ①小学校の児童・教師・保護者向け交通安全教育用教材の作成・普及
- ②園児・児童対象のアンケート分析に基づく研究協議
- ③その他、必要とされる事業

◆事務局

本委員会の事務局は、（財）日本交通安全教育普及協会に置き、次の事項を執行する。

- ①本委員会の開催等に関すること。
- ②各委員の委嘱や連絡調整等に関すること。
- ③関係資料等の作成や文書の処理等に関すること。
- ④その他、必要事項等に関すること。

◆その他

- ①本委員会の委員は、別紙のとおり。
- ②本委員会要項の実施に関し必要な事項は本委員会において決定する。
- ③本委員会要項は、平成 19 年 4 月より施行する。

平成 24 年度自転車交通安全教育推進委員会 委員名簿

※敬称略・順不動

◆企画研究プラン事業

No.	氏名	備考
1	猪狩 一史	朝霞市立朝霞第五小学校 教諭
2	伊藤 正和	狭山市立南小学校 教諭
3	関根 祐一	所沢市教育委員会 指導主事
4	永嶋 和実	さいたま市立河合小学校 教頭
5	細内 滋実	入間市立藤沢南小学校 教諭
6	西山 学	さいたま市立大宮北小学校 教諭
7	渡辺 中	富士見市立関沢小学校 教諭

◆子ども実践指導プラン事業

No.	氏名	備考
1	柴崎 正司	地区リーダー
2	岩崎 てる子	地区リーダー
3	岡安 節子	地区リーダー
4	桜井 英二	地区リーダー
5	佐藤 紀彰	地区リーダー
6	星野 裕子	地区リーダー
7	渡辺 雅子	地区リーダー
8	小宮 道子	地区リーダー
9	吉野 房子	地区リーダー
10	松本 達明	地区リーダー
11	吉田 正身	地区リーダー

No.	氏名	備考
1	内野 千恵子	交通指導員
2	小寺 恭子	交通指導員
3	手塚 素子	交通指導員
4	中村 久美子	交通指導員
5	柳 みか	交通指導員
6	和田 素実	交通指導員

◆事務局

1	西 則光	(一財) 日本交通安全教育普及協会 常務理事
2	成迫俊美	(一財) 日本交通安全教育普及協会 主幹
3	石川英司	(一財) 日本交通安全教育普及協会 次長

3. 事業の内容と考察

3. 事業の内容

(1) 自転車交通安全教室の実施

さいたま市・上尾市内の幼稚園、保育園、小学校の園児・児童を対象に自転車の実技体験を通じて安全意識を醸成する自転車交通安全教室と自転車点検を計10回実施。指導者の養成を図るため地区リーダーも参加。

幼稚園・保育園

① 普門院幼稚園（さいたま市）

期 日：平成24年6月8日（金） 午前10時45分～11時45分

会 場：普門院幼稚園「講堂」

参加者：普門院幼稚園園児 173名

指導者：自転車交通安全教育推進委員

内 容：腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



② 大成保育園（さいたま市）

期 日：平成24年6月12日（火） 午前10時～11時

会 場：大成保育園「講堂」

参加者：大成保育園園児 24名

指導者：自転車交通安全教育推進委員

内 容：腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



③大成幼稚園（さいたま市）

期 日 : 平成24年7月5日（木） 午前10時45分～11時45分
会 場 : 大成幼稚園「講堂」
参加者 : 大成幼稚園園児 76名
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員
内 容 : 腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



小学校

④大宮北小学校（さいたま市）

期 日 : 平成24年5月25日（金） 13時30分～15時30分
会 場 : 大宮北小学校「グラウンド」
参加者 : 大宮北小学校 3年生 43名
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員
内 容 : 点検、乗車姿勢、ヘルメットの着用方法
基本走行（信号交差点、信号のない交差点、駐車車両の側方走行）
総合走行



⑤日進北小学校（さいたま市）

期 日 ： 平成24年6月5日（火）〈1年生〉10時40分～11時25分
 〈3年生〉13時30分～15時

会 場 ： 日進北小学校「グラウンド」
参加者 ： 日進北小学校 〈1年生〉156名 〈3年生〉154名
指導者 ： 自転車交通安全教育推進委員
内 容 ： 〈1年生〉 信号の意味、横断歩道の渡り方
 〈3年生〉 点検、乗車姿勢、ヘルメットの着用方法
 基本走行（信号交差点、信号のない交差点、
 駐車車両の側方走行）、総合走行



⑥大成小学校（さいたま市）

期 日 ： 平成24年6月23日（土） 10時～12時

会 場 ： 大成小学校「グラウンド」

参加者 ： 大成小学校 2・3・4年生 100名

指導者 ： 自転車交通安全教育推進委員

内 容 ： 点検・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法

基本走行（信号交差点、信号のない交差点、駐車車両の側方走行）

総合走行



⑦上尾西小学校（上尾市）

期 日 : 平成24年9月21日（金）13時10分～14時40分
会 場 : 上尾西小学校「グラウンド」
参加者 : 上尾西小学校 3年生 67名
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員
内 容 : 点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法
基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）
総合走行



⑧鴨川小学校（上尾市）

期 日 : 平成24年10月10日（水）13時30分～15時30分
会 場 : 鴨川小学校「グラウンド」
参加者 : 鴨川小学校 3年生・4年生 111名
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員
内 容 : 点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法
基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）
総合走行



⑨平方東小学校（上尾市）

- 期 日 : 平成24年11月7日（水）13時30分～15時30分
会 場 : 平方東小学校「グラウンド」
参加者 : 平方東小学校 3・4・5・6年生 111名
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員
内 容 : 点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法
基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）
総合走行



⑩芝川小学校自転車点検（さいたま市）

- 期 日 : 平成24年11月17日（土）14時～15時30分
会 場 : 芝川小学校「校舎前」
参加者 : 芝川小学校 児童・保護者 約100名
指導者 : 自転車整備士（ブリヂストンサイクル株）
内 容 : 参加者が持参した自転車の点検指導



自転車安全運転証の交付

自転車交通安全教室に参加した小学校の児童に交付。法的な効力性はないが、本事業に参加した証として子ども達の誇りと励みになり、今後自転車を「車両」として利用する自覚や意識の定着化を促進するために交付。

自転車安全運転証		
氏名	〇〇〇〇	平成 年 月 日生
学校名	〇〇市立〇〇小学校	血液型 型
写真	番号 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
	交付 平成 2 4 年 月 日	
財団法人日本交通安全教育普及協会		

(2) 自転車啓発パンフレットの作成・配布（児童向け）

家庭における自転車の基本的なルールやマナーの周知を図るために児童向け自転車啓発パンフレットを作成配布

配布数 : 20,000部

配布先 : 主としてさいたま市および上尾市内の小学校140校

配布時期 : 平成25年3月中旬

配布対象 : 小学3年生の児童



交通安全

子ども掲示板



事故をなくすために！

埼玉県では、自転車や歩行者の死亡事故が多く起こっており、大きな問題となっています。このような事故に巻き込まれないために、自転車に乗るときや、道路を歩くときには、十分注意して下さい。

と まらないと

とまる

きちんと止まりましょう

ま たないと

待つ

青になるまで待ちましょう

た しかめないと

たしかめる

もう一度安全をたしかめましょう

み ないと

みる

まわりをよく見ましょう

4 つの約束習慣づけよう

自転車啓発パンフレット〈裏〉

交差点の走り方

信号機のあるところ

右折するときは安全を確かめ、前方の青信号で直進して、交差点の向こう側で止まり向きを変え、信号が青になったら安全を確かめ直進する。

信号機のないところ

〔右折するとき〕安全を確かめ、道路の左側に寄って交差点の向こう側まで直進して、速度を落とし、安全確認をして右折する。
〔左折するとき〕前後左右の安全を確かめ、道路の左はしに沿って曲がる。

「自転車横断帯」を通過して、交差点を横断する。

横断歩道を通行するとき、歩行者がいる場合は自転車を押して渡る。

自転車に乗る前に点検しよう

反射器材がなかったりこわれていませんか。

サドルはしっかり固定されていますか。高さは合っていますか。

スタントはしっかり立ちますか。

チェーンはゆるんでいたり、さびていませんか。

ハンドルはガタガタしていませんか。

ベルは鳴りますか。

ブレーキはききますか。

ライトはしっかりつきますか。

■ペダルの正しい踏み方

ペダルは鳴りますか。

ブレーキはききますか。

ライトはしっかりつきますか。

フタ レーキはききますか？

イヤに空気が入っていますか？

ベル は鳴りますか？

サラ ドルは高くはないですか？

イトはつきますか？

ハチ ンドルはガタガタしていませんか？

チェーンはゆるんでいませんか？

タイヤに空気が十分入っていますか。

飛び出しは危ないよ！必ず止まって、前後左右の安全を確かめよう！

黄色と青のチカチカは、渡り始めてはいけないという合図だよ！

ヘルメットを着けてからね！

自転車で公園へ行ってもいい？

自転車に乗るときは、ヘルメットを着けよう！

編集・発行
(一財)日本交通安全教育普及協会
〒106-0031 東京都港区西麻布3-24-20
TEL 03-3478-1831 FAX 03-3478-1835 URL <http://www.jatras.or.jp/>

無断で本書の全部又は一部の転載を禁じます。

(3) 交通安全教育の授業研究会の実施

当協会が作成した教師用指導資料「新たな安全教育指導プログラム」を学校現場での授業を通して活用し、教師が児童の危険予測回避能力を一層高められる効果的な授業づくりの展開方法と教師の指導力向上を図る。

①大成小学校会場

期 日 : 平成24年11月19日(月)

会 場 : さいたま市立大成小学校

後 援 : さいたま市教育委員会

参 加 者 : 校内教職員

内 容 : 授業研究(13:40~14:25)

授業者 野村 昌平 先生(3年生担当教諭)

テーマ 「自転車で下り坂を走るとき」

研究協議会(15:00~16:30)

司 会 成迫 俊美(一財)日本交通安全教育普及協会主幹

指導助言者 高山 俊介先生(さいたま市教育委員会 指導主事)



第3学年5組 学級活動指導案

平成24年11月19日

場所 3年5組教室

指導者 野村 昌平

男子18名 女子 16名 計34名

1 題材 「自転車で下り坂を走るとき」

2 児童の実態と題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく元気で休み時間には外遊びを楽しむ児童も多く、活動的に学校生活を送っている。一方で、校舎内では、廊下や昇降口等で友達とぶつかって転倒するなど、安全上で問題となる場面も見られる。

事前に実施したアンケート調査を見ると、自転車の運転はうまい方だと思っている児童は約80%、事故にあわない自信があると答えた児童は70%と自らの運転技術に自信があり、事故には遭わないと考えていることが分かった。また、自転車で乗っていて、ドキッとした、ヒヤリとしたことがある児童が、約40%いた。このことから、自転車で走行することには自信を持っているが、危険の回避をしたり安全行動をしたりすることはできていないと考えられる。本時では、このアンケート結果から、飛び出しや出会い頭で危険を感じた児童が多かったことから、本題材を取り上げた。

(2) 題材設定の理由

ここ数年、交通事故件数は非常に多し現状が続いている。児童・生徒の交通事故件数も同様で、特に自転車による事故の件数が多い。警察を中心とする各関係諸機関で様々な取り組みを行い、学校でも交通安全教室等の様々な取組が行われている。

事故が減らない大きな原因の一つとして、児童が予め危険を予測できていないことがある。これから起こりうる危険を予測できれば、慎重な行動をとり交通事故をかなり減らすことが考えられる。危険予測学習は、イラストなどの交通場面を使い、交通状況の読み取りや顕在・潜在する危険を予測して、事前に回避する能力を身に付けることであると考え、本題を設定した。

3 評価の観点・規準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
どのようなことに気をつける と事故が防げるか進んで考えて いる。	危険を予測し、その対処方法を 工夫して考え、安全な行動を取る ことができる。	これから起こるかもしれない 見えない危険があることを理解 している。


4 本時のねらい

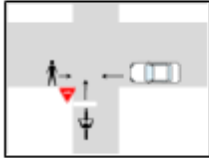
- ・飛び出しの危険性を理解し、下り坂で安全に自転車の走行ができるようにする。

5 事前指導


- ・事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート）
- ・事前調査の集計、分析

6. 本時の展開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	資料
はじめ	<p>○問題を把握する。</p> <p>1 事前調査結果や最近の事故のニュースなどから、感じたことを発表する。</p> <p>2 問題場面を知る。</p>	<p>・「交通安全の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしてはならないという意識をもたせる。</p> <p>・事前調査の結果を知らせ、自転車走行時の危険について知らせる。</p> <p>T「この絵を見て分かることはありますか。」</p>  <p>・下り坂を自転車で走っている(スピードが出ている)</p> <p>・前方に交差点があるが、高い塀で見通しが悪い。</p> <p>・交差点の手前に止まれるの標識がある。</p> <p>・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">下り坂かでの自転車の安全な乗り方を考えよう</div>	<p>調査結果表</p> <p>場面絵</p>
展開	<p>○場面を分析する。</p> <p>3 起こりうる事故を予測する。</p>	<p>T「このまま自転車で走っていくと、どんな危険が起こりそうですか。」</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交差点の壁で見えない左右の道から自動車、バイク、自転車や歩行者が飛び出してきたりして接触する。 ・スピードの出し過ぎによって転倒する。 ・交差点で、後方から来た左折車に巻き込まれる。 ・後方から来る自動車やバイクと接触する。 </div> <p>・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。</p>	<p>ワークシート</p>

展 開	<p>4 事故の理由を考える</p> <p>【人的要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避ぶことばかり考えている。 ・急いでいて自転車のスピードを出している。 ・隣の向こう側の自動車等に気づいていない。 <p>【環境要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道幅の狭い、下りの坂道である。 ・交差点には止まれる標識がある。 ・周りに高い塀があり 交差点の見通しが悪い。 	<p>T 「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。 	ワ ー ク シ ー ト
	<p>・交差点に飛び出して、自動車や歩行者などと接触</p> <p>・スピードの出しすぎで、一時停止できず転倒</p> <p>・後方から来る自動車やバイクに気づかず接触</p>		
	<p>5 危険回避方法（安全行動）を選定する。</p> <p>具体的な危険回避方法</p> <p>「しっかり見る」 → 交差点では一時停止して左右の確認をする。後方にも気を配る</p> <p>「しっかり見せる」 → 後方車両には一時停止する意思を示す。</p> <p>「相手からの視点」 → 壁の向こう側などの見えないところの状況を予測しながら交差点に近づく。</p> <p>「安全のための行動」 → ブレーキを使って減速する。交差点では必ず一時停止する。</p>	<p>T 「どうしたら危険を防ぐことができますか。安全な行動を考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・単に「一時停止をする」「安全確認をする」というのではなく、交通場面の特徴や死角での動き等を含め、具体的に発表させる。 	
<p>6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの行動基準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表しあい、理解を深めさせる。 ・発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。（模擬的な検証） ・自転車＝車両であり、減速や一時停止、安全確認などの行動の大切さを認識させる。 ・俯瞰図（左図）を用いて検証する。 		
ま と め	<p>7 安全行動を実践化できるようにする。</p>	<p>T 「自転車で下りの坂道を安全に走行するためのめあてを考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 	
事 後 の 活 動	<p>○めあてを教室内に掲示し、交通安全への意識化を図る。</p> <p>○めあてをもとに自分の生活についてふり返り、安全な行動をしようとする意欲を高める。</p> <p>○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。</p> <p>○「自転車安全マップづくり」を通して学習内容の定着を図る。</p>		

板書計画

自転車の安全な乗りかたを考えよう	事故になった理由	安全にのる方法						
<p data-bbox="400 595 596 730">場面絵</p> <ul data-bbox="347 757 596 846" style="list-style-type: none">・スピードを出している・さかの下に止まれがある・へいがあって見えない	<table border="0"><tr><td data-bbox="751 562 847 595">のり方</td><td data-bbox="967 562 1027 595">心</td></tr><tr><td data-bbox="691 600 895 757"><ul style="list-style-type: none">・スピードの出しすぎ・ブレーキをかけない・止まれを守らない・右左を見ていない・とびだしている</td><td data-bbox="935 600 1074 663"><ul style="list-style-type: none">・遊びたくてあせっている</td></tr></table> <p data-bbox="847 707 967 869"></p> <table border="0"><tr><td data-bbox="699 831 847 864">きけんなこと</td></tr><tr><td data-bbox="691 880 975 969"><ul style="list-style-type: none">・車・人が来てぶつかる・スピードを出しすぎて、転ぶ・後ろからも車が来る</td></tr></table>	のり方	心	<ul style="list-style-type: none">・スピードの出しすぎ・ブレーキをかけない・止まれを守らない・右左を見ていない・とびだしている	<ul style="list-style-type: none">・遊びたくてあせっている	きけんなこと	<ul style="list-style-type: none">・車・人が来てぶつかる・スピードを出しすぎて、転ぶ・後ろからも車が来る	<p data-bbox="1102 562 1257 685">併走図</p> <ul data-bbox="1094 696 1294 909" style="list-style-type: none">・ブレーキを使ってスピードを落とす。・左右かくにんする・あせらないように早めに出かける・止まれのひょうしきを守る。
のり方	心							
<ul style="list-style-type: none">・スピードの出しすぎ・ブレーキをかけない・止まれを守らない・右左を見ていない・とびだしている	<ul style="list-style-type: none">・遊びたくてあせっている							
きけんなこと								
<ul style="list-style-type: none">・車・人が来てぶつかる・スピードを出しすぎて、転ぶ・後ろからも車が来る								

7 資料1 (アンケート結果)

問1、自転車の運転は上手い方だと思いますか？ (単位：人)

ぜんぜんうまくない	あまりうまくない	どちらともいえない	少し自信がある	とても自信がある
4	1	3	14	12

問2、事故にあわない自信がありますか？ (単位：人)

ぜんぜん自信がない	あまり自信がない	どちらともいえない	少し自信がある	とても自信がある
2	1	7	12	12

問3、自転車の運転について気を付けていることがありますか？ (単位：人)

とくにない	1つある	2つある	3つ以上ある
13	15	1	5

・問3であると答えた人は気を付けていることを教えてください。

- 飛び出しをしない
- なるべく車道に出ない
- フラフラしない
- 信号に気を付ける
- スピードを出さない
- 人を選ける
- 左右を良く見て渡る
- 前を良く見る
- 道路の真ん中を走らない

問4、自転車に乗って出かける時に、気を付けたほうがいいと思う場所がありますか？ (単位：人)

まったくない	1つある	2・3こある	たくさんある
10	17	4	3

問5、自転車に乗っていて、ドキッしたり、ヒヤリとしたことがありますか。

まったくない	1回ある	2・3回ある	たくさんある
22	11	1	0

・あると答えた人はその時の様子を教えてください。

- 角を曲がる時に車が来て、ぶつかりそうになった。
- 信号を渡る時にフラフラした。
- バランスを崩して倒れそうになった。
- 道路に飛び出した。

・そのとき、どのくらい「あぶない」と感じましたか？

それほど危なくなかった	すこし危なかった	危なかった	とても危なかった
5	2	4	1

・そのとき、どう思いましたか？

相手が悪いと思っ た	自分が悪いと思っ た	ドキドキしていた	反省した	その他
2	3	3	1	2

「自てん車で下り坂を走るとき」ワークシート

名前 _____

- 1 下りの坂道を走って、友達の家遊びに行くところです。
どんなきけんがおこりそうですか？（○をつけて、ことばで書きこみましょう）



- 2 どうしたら、きけんをふせぐことができますか？

- 3 自てん車で下りの坂道を安全に走るための「めあて」を考えましょう。

②尾間木小学校会場

期 日 : 平成25年1月18日(金)

会 場 : さいたま市立尾間木小学校雅之

後 援 : さいたま市教育委員会

参 加 者 : 校内教職員

内 容 : 授業研究(14:35~15:20)

授業者 小池 智行 先生(4年生担当教諭)

テーマ 「止まっている車をよけるとき」

研究協議会(15:40~16:40)

司 会 成迫 俊美(一財)日本交通安全教育普及協会主幹

指導助言者 高山 俊介先生(さいたま市教育委員会 指導主事)



尾間木小学校 第4学年4組 学級活動指導案

1月18日第6校時

指導者 小池 智行

1 題材「止まっている車をよけるときの危険予知学習～

2 児童の実態と題材設定の理由

(1) 児童に実態

本学級の児童は、明るく、活発に遊ぶ児童が多い。反面、友だちとぶつかったり、転んだり、安全上の少しの配慮があれば防げたけが多い。交通安全においても、同様な傾向が見受けられる。アンケート調査の結果を見ると、自転車尾技術に自信がある児童が多く（少しある・とてもある 合わせて65%）、事故にあわない自信がある児童も多い（少しある・とてもある 合わせて67%）。しかし、今年、自転車運転で怖い思いをした児童は、50%にもものぼり、自信と実際のアンバランスが感じられる。また、交通安全で特に気をつけていないという児童が、35%にもものぼっており、安全上の配慮には欠けていると考えることができる。

(2) 題材設定の理由

近年のさいたま市における交通状況は正直余りよいとはいえない。これは本校においても同様で、近郊の宅地化が進み、人口が増加、交通量も増加の一途をたどっている。そんな中で、地域では警察を中心とした様々な取り組み、学校でも交通安全教室等の取り組みが行われている。しかし、事故の件数が経ていない。

では、なぜ減らないのか。その原因として、児童が自ら身を守るという意識が薄いからだと考えられる。自ら置かれている状況を判断し、自ら危険を予測することができれば、それに反する行動をするはずがない。つまり交通事故は減るはずである。危険予測は、難しいことではない。しかし、日頃からのトレーニングで身につけていないと、いざというときに使えるものではない。そのために、今回は題材として危険予知学習を設定し、児童により自発的に危険に立ち向かう姿勢をつけさせる第一歩としたい。

3 評価の観点・規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
どのように気をつけると事故が防げるか進んで考えている。	危険を予測し、その対処方法を工夫して考えている。	交通事故を防ぐための注意点に気づき、安全な行動をとることができる。	これから起こるかもしれない見えない危険があることを理解している。


4 本時のねらい

- ・交通状況を読み取り、起こりうる危険予測できるようにする。
- ・停車車両を避けて通る際の、安全行動を身に付けられるようにする。
- ・交通社会の一員として、周囲へ配慮した自転車の運転ができるようにする。

5 事前指導

- 事前調査の実施（交通安全についての意識・行動アンケート） ※7 資料参照
- 事前調査の集計・分析

6 本時の展開

段階	学習内容・活動内容	指導上の留意事項	資料
はじめ	<p>○問題を把握する。</p> <p>1 事前調査結果や最近の事故ニュースなどから、感じたことを発表する。</p> <p>2 問題場面を知る。</p> <div data-bbox="411 801 1094 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 自転車で止まっている車を追い越そうとしています。 どんな危険が起こりそうですか？ </div> <div data-bbox="419 882 826 1144" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div>	<p>・「交通事故の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。</p> <p>・身近な交通場面の絵や写真を掲示する。</p> <p>・自転車に乗っている。 ・緑石があって、歩道に入れな ・左側は狭くて通れなさそう？ ・右から追い越さないと行かない。 ・車の中の様子は？</p> <p>・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。(どんな意見も受け入れる雰囲気作り)</p>	<p>調査結果表</p> <p>場面絵</p>
展開	<p>○場面を分析する。</p> <p>3 起こりうる事故を予測する。</p>	<p>T「このまま道路を走っていくと、どんな危険が起こりそうですか？」</p> <div data-bbox="667 1317 1114 1473" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車を右側に避けると、前の対向車とぶつかる。 ・車を右側に避けると、後続車とぶつかる。 ・車の前から人が出てきてぶつかる。 ・自動車のドアが開いてぶつかってしまう。 </div> <p>・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。(なぜ危険なのか理由を明らかに)</p>	ワークシート

展 開	4 事故の理由を考える。	T「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えましょう。」 ・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって起こることが多いことを理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。	ワ ー ク シ ー ト		
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【人的要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全確認をしない（めんどくさい） ・油断（たぶん、大丈夫だろう） ・避けようとして大きく対向車線にはみ出てしまう。（運転技術） </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【環境要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停車車両による死角（対向車・横断者） ・緑石のため左側の歩道に入れない。 ・後続車の危険 ・停車の目的（降車のためドアが開き衝突） </div> </div>				
		↓			
		<ul style="list-style-type: none"> ・自転車が急に右側に進路変更すると、同様の後続車から追突される。 ・停車車両の脇を通過中、降車のため急に右側のドアが開き衝突する。 ・前方の対向車と逃げ場がなくなり衝突。 			
	○仮説を設定する。 5 危険回避方法（安全行動）を選定する。	T「どうしたら危険を防ぐことができますか？ 安全な行動を考えましょう。」 ・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・単に「一旦停止する」「安全確認をする」というのではなく、交通場面の特徴等を含め具体的に発表させる。 ・車で隠れて見えない「潜む危険」についても意識させる。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>具体的な危険回避方法</p> <p>「しっかり見る」 → 道路中央に出る前に、前方・後方の安全確認。（停止・降車） 「しっかり見せる」 → 後続車両がある場合は一時停止、やり過ごす意志を示す。 「相手からの視点」 → 対向車からは、自分が見えない。出て来ると思わない。 「安全のための行動」 → 停車車両の様子に気を配り、対向車・後続車の確認をしてから側方を徐行することが大切。 より安全な行動としては自転車を停車降車して安全確認。</p> </div>				
	○仮説を検証する。 6 選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。	・自分なりの行動基準とその有効性を検討する。 ・班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。 ・発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。（模擬的な検証） ・重要な安全行動が児童から出ない場合には、必ず教師が補足する。			
ま と め	○安全行動を適用する。 7 安全行動を実践化できるようにする。	T「止まっている車を安全に追い越すためのめあてを考えましょう。」 ・話し合ったことをもとにして、交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。			
事 後 の 活 動	○めあてを教室内に掲示し、交通安全への意識化を図る。 ○めあてをもとに、自分の生活についてふり返り、安全に自転車を走行しようとする意欲を高める。 ○家庭でも話し合いをし、家族の交通安全についても考えさせる。				

7 資料1 (アンケート結果) 実施 12月14日

男子19名 女子15名 計34名

1 あなたは自転車の運転は上手だと思いますか。 (単位: %)

ぜんぜん上手くない	あまり上手くない	どちらともいえない	すこし自信がある	とても自信がある
9	3	24	41	24

2 あなたは事故にあわない自信がありますか。 (単位: %)

ぜんぜん自信がない	あまり自信がない	どちらともいえない	すこし自信がある	とても自信がある
6	9	18	32	35

3 自転車の運転について気をつけていることがあります。 (単位: %)

特にない	1つある	2つある	3つ以上ある
35	35	15	15

3で「ある」と答えた人は、気をつけていることを教えてください。

(単位: 人数)

- 自転車の運転をなれでしないようにする。
- 暗いときはライトをつける。(3)
- 曲がり角で止まり、左右を確認する。(9)
- スピードを出しすぎない。(3)
- 角など車の出てきそうなところは止まる。(3)
- 自転車に乗りながらおしゃべりはしない(集中する)。
- 車道を走るときは、なるべく左に寄せる。
- 自転車の乗り方を守る。

4 自転車に乗ってでかけるときに、気をつけた方がいいと思う場所がありますか。 (単位: %)

まったくない	1箇所ある	2箇所ある	3箇所以上ある
9	50	29	12

5 4年生になってからのことを振り返って、自転車に乗っていて、ドキッとしたり、ヒヤリとしたことがありますか。 (単位: %)

まったくない	1回ある	2回ある	3回以上ある
50	32	9	9

5-1 5で「ある」と答えた人は、一番今に近いときのことについて教えてください。

(単位: 人数)

- 曲がり角で、曲がりきれずひかれそうになる。
- 坂道でブレーキがきかなくなった。(2)
- 急いでいたら自転車同士でぶつかりそうになった。(3)
- 見通しの悪い交差点などで車にひかれそうになった。(3)

- 歩道を走っていたら、歩行者が近寄ってきた。
- よそ見をしていたら、物にぶつかりそうになった
- 飛び出してきたネコとぶつかりそうになった。
- 気づかずに車道に出ていて、車にひかれそうになった。
- 交差点で車が飛び出してきた。
- 赤信号なのに車が走ってきた。
- 自転車に乗る練習中にバランスを崩した。

5-2 そのとき、どのくらい「危ない」と感じましたか。 (単位：%)

それほどあぶなくなかった	すこしあぶなかった	あぶなかった	とてもあぶなかった
3	18	21	9

5-3 そのとき、どう思いましたか。 (単位：%)

相手が悪いと思った	自分が悪いと思った	ドキドキしていた	反省した	その他
0	24	9	18	3

その他 お互い様だと思った。(1名)

資料2 (ワークシート)

「止まっている車をよけるときの」ワークシート

4年 組 名 前 _____

- 1 自てん車で、止まっている車を追いこそうとしています。
どんなきけんがおこりそうですか？ (Oをつけて、ことばで書きこみましょう)



- 2 どうしたら、きけんをふせぐことができますか？

- 3 止まっている車を安全に追いこすための「めあて」を考えましょう。

③河合小学校会場

期 日 : 平成25年1月25日(金)
会 場 : さいたま市立河合小学校
後 援 : さいたま市教育委員会
参 加 者 : 河合小小学校教師並びに市内学校
内 容 : 授業研究(13:55~14:40)

授業者 奈良佑紀先生(1年生担当教諭)

テーマ 「おうだんほどうをわたるとき」

研究協議会(15:00~16:30)

司 会 大塚 雅之 先生 (河合小学校 教諭研修主任)

指導助言者 高山 俊介 先生 (さいたま市教育委員会主任指導主事)



河合小学校 第1学年1組 学級活動指導案

平成25年 1月25日(金) 第5校時
 指導者 奈良 佑紀
 指導場所 1年1組教室・ふれあいルーム
 在籍児童数 男子12名 女子9名 計21名

1 題材 「おうたんぼどうをわたるとき」 (2)カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は明るく素直で、学校や学級でのきまりをしっかりと守ることができる。また、近隣の幼稚園児との交流などを通し、もうすぐ2年生に進級することを意識し始めている。さらに、新しく入学してくる1年生の良い手本になりたいと考えている児童も多い。

一方、入学してから10カ月が経って学校生活に慣れてきたため、入学当初の頃と比べ、登下校に関する安全のきまり・約束等への意識が薄れてきている児童が多い。具体的な児童の登下校の様子は、左右を十分に確認しないまま横断歩道を横断したり、横断の際に手を挙げなかったり、後ろの友達と話しながら歩行したりしているなどである。交通安全に関する意識や行動を、見直させることが必要である。

(2) 題材選定の理由

本校の学区は歩道と車道が分離されている道路が少ない上に道幅も狭く、国道の迂回路に利用するため自動車の交通量もかなり多い。さらに見通しの悪い交差点や、信号機・横断歩道が設置されていない箇所、東北自動車道の上を渡る橋など危険な場所が点在している。また、学区が広いので歩道のない道を30分以上歩いて登校してくる児童も多い。そこで、改めて学区内の危険な箇所に目を向けさせるとともに、車道を横断するという最も危険な場面での危険を予測・回避する能力を十分に身に付けさせたいと考え、本題材を設定した。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

4 本題材のねらい

- ・交通状況を読み取り、起こりうる危険を予測できるようにする。(右左折車両等)
- ・横断歩道を渡る際の安全行動を身に付けられるようにする。
- ・交通社会の一員として、周囲へ配慮した歩行や自転車の走行ができるようにする。

5 事前の指導と評価

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・児童全員がヒヤリ・ハット体験についてのアンケートに答え、今までの道の通行の仕方を振り返る。	・道路で危ない思いをしたときのことを振り返ることのできるアンケートをとる。	【関心・意欲・態度】 -自己の経験における歩行について振り返ろうとしている。(アンケート・観察)



「ヒヤリ・ハット体験についてのアンケート」結果

平成24年11月26日 1年1組児童21名全員に実施

① みちでヒヤリ・ハットしたことがありますか？	
ある 12人 (57.1%)	ない 9人 (42.9%)
② そのときのことをくわしくおしえてください。(①で「ある」と答えた児童のみ回答)	
歩いているときか、自転車に乗っているときか	徒歩：10人 自転車：2人
一人だったか、誰かと一緒だったか	一人：6人 複数：6人 (大人5人、友達1人)
なぜ、ヒヤリ・ハットしたのか	車にひかれそうになった：7人 自転車にぶつかりそうになった：5人 主な原因 後ろを向いて歩いていた・落としたものを拾おうとしていた 道の中央側にはみ出して歩いていたなど

アンケートの結果を見ると、クラスの半数以上の児童が「ヒヤリ・ハット体験」をしていることが分かる。また、そのときの状況は、一人で歩いていたときと誰かと一緒だったときの割合は半々であり、大人と一緒にであろうと危険な体験をしていることがわかる。本時では、このアンケート結果を活用し、主体的に安全な行動をすることの重要性和ちょっとした油断や判断ミスが大きな事故に直結するのだということを児童に理解させたい。

6 本時の展開

学習過程	学習活動	指導上の留意点	資料等	目指す児童の姿と評価方法	時間分
課題の意識化	1 アンケートの結果を見て、感じたことを発表する。	・身近で頻発している交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしなくてはならないという意識をもたせる。	アンケート結果		3
	2 問題場面を知る。	・横断歩道とは何かを確認する。			5
	<p>おうたんぼどうを わたろうとしています。どこが あぶないですか？</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・身近な交通場面の写真を提示する。 ・交通標識から読み取れるものをできるだけ多く発表させる。 		場面写真 下級児童の絵 ワークシート		
	<p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おしゃべりしている。 ・壁や木で左右が見えない。 ・前の車が曲がるかもしれない。 ・見えないところから自転車やバイク、別の車が出てくるかもしれない。 ・よそ見して、車に気付いていない。 ・黄色い帽子をかぶっていない。 ・後ろから車が来るかもしれない。 				

展 開	原因の 追及・ 把握	3 起こりうる事故を予測する。			5
		<p>このままだと どんなじこが おこりそうですか？</p> <p>・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。(なぜ危険なのか理由を明らかにさせる)</p> <p>【思考・判断・実践】 ・交差点にどのような危険があるか考えている。 (発言・ワークシート)</p> <p>【予想される児童の反応】 ・よそ見していて、死角から来る車に気付かずぶつかる。 ・おしゃべりしていて、左右を見ずに渡り 車とぶつかる。 ・手を挙げずに渡り 大型車とぶつかる。</p>			
展 開	解決や 対処の 仕方の 検討	4 事故の理由を考える。	・事故の原因には人的要因と環境要因の両方にかかわって起こることが多いことを理解させ、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくする。		6
		<p>【人的要因】 【油断】 ・おしゃべりしている ・遊びに夢中 【安全確認をしていない】 ・一時停止をしていない ・左右確認をしていない</p> <p>【環境要因】 【交差点・横断歩道】 ・交通量が多い ・死角が多い ・様々な交通状況が交錯する</p> <p>↓</p> <p>・死角から出てきた車やバイクと衝突する。 ・前方から直進してきた車が左折し、衝突する。 ・車道に飛び出し、後方から来た車や自転車と接触する。</p>			
終 末	自己 決定	5 グループで危険回避方法(安全行動)を決定する。			8
		<p>どうすれば あんぜんに わたれるでしょうか？</p> <p>・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。 ・塀や木で隠れて見えない「潜む危険」についても意識させる。</p> <p>ワークシート</p> <p>【思考・判断・実践】 ・自分で課題を解決するための実践方法を考えている。 (ワークシート・発表)</p> <p>具体的な危険回避方法</p> <p>「しっかり見る」 → 右側通行をしていても安全とは限らない。必ず「一時停止」「左右確認」をする。 「しっかり見せる」 → 低学年は特に小さく、運転者から見えにくい。しっかり手を挙げる。黄色い帽子をかぶる。 「相手からの視点」 → 急いで進みたい、横断者より先に進もう という心理。歩行者の見落としもある。 「安全のための行動」 → 上記の安全行動に加え、運転者とのアイコンタクトをする。自転車乗車中の場合、停車・降車して安全に横断。</p>			


終 末 実 践 へ の 意 欲 化	6選定した危険回避方法（安全行動）を検証する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 3つのポイント ○よく見る ○よく見せる ○新しいことをかんがえる </div>	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの行動基準とその有効性を検討する。 班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。 発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。(模擬的な検証) 重要な安全行動が児童から出ない場合には、必ず教師が補足する。 ポイントを分かりやすくまとめ、すぐ実践できるようにする。 			8
	7正しい安全行動を実践する。 (ふれあいルーム) 8交通安全の自分のめあてを持ち、行動目標を立てる。 9教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 模擬横断歩道を実際に通り、安全行動を一人ひとりに実践させる。 車の運転者には死角ができることを理解させる。 学区にある横断歩道を写真で確認する。 交通安全の自分のめあてを持ち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。 	複製横断歩道	【知識・理解】 ・横断歩道の安全な歩行の仕方を理解している。 (発言・観察) 【思考・判断・実践】 ・横断歩道の安全な歩行の仕方を実践できている。 (発言・観察) 【思考・判断・実践】 ・横断歩道の安全に渡るための「めあて」を考えている。 (ワークシート)	

7 事後指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> めあてをもとに、自分の生活について振り返り、道路を安全に通行するようにする。 家庭でも話し合いをし、交通安全についての考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてを教室内に掲示し、交通安全への意識化を図る。 学級通信などを活用して学校の取り組みを家庭に伝え、連携を図る。 帰りの会の時間などを利用し、児童の実践を作業し合い、実践を毎日継続できるようにする。 	【思考・判断・実践】 ・自分の立てためあてや実践方法に進んで取り組んでいる。 (実践カード・観察)

8 板書計画

おうたんぼどうを わたるとき



どこが あぶないですか？

- 見えない箇所がある。
- よそ見してあるいている。
- まえからくる車
- よこからくる車

どうすればあんぜんにわたれるでしょうか？

- よそ見をしない。
- いったんとまって、みぎ・ひだりを見る。
- 手をあげて、うんでんしている人に見せる。

おうたんぼどう

白いまもようのせん
人があわいてわたるばい

どんなじこが
おこりそうですか？

- 見えないところからきた車にぶつかる。
- よそ見して、車にきづかずぶつかる。

3つのポイント

- よく見る
- よく見せる
- 新しいことをかんがえる

9 ワークシート

おうだんほどうをわたるとき

1ねん1くみ()

1. あぶないところに あかえんびつで しるしをつけましょう。



2. どうすれば あんぜんに わたれるでしょうか？

Blank rounded rectangular box for writing an answer to question 2.

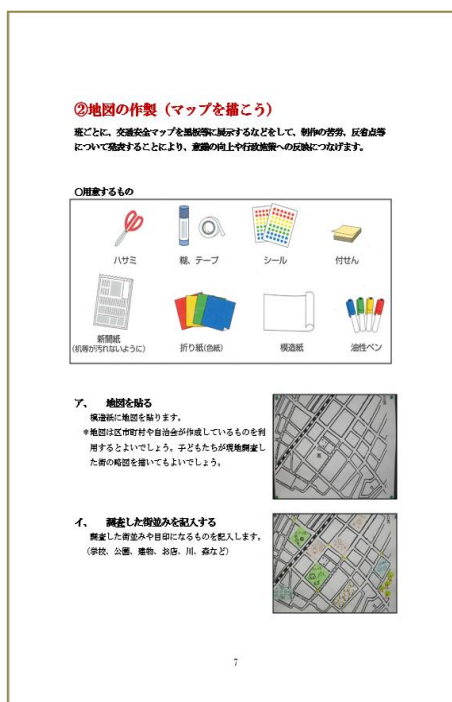
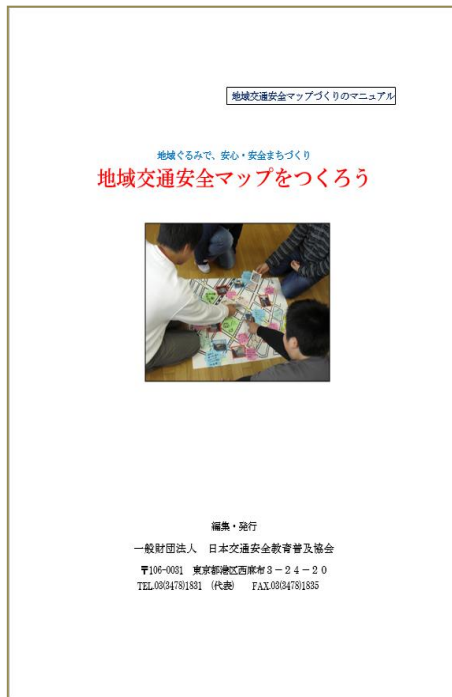
3. おうだんほどうを あんぜんにわたるための「めあて」をきめましょう！

Blank scroll-shaped box for writing an answer to question 3.

(4) 「地域交通安全マップづくりのマニュアル」の作製

「地域交通安全マップづくり」は自分自身が交通事故の危険を予測する能力を身につけるために非常に有効な方法であり、地域ぐるみの安全対策にもつながるものであるため指導マニュアルを作製。

〈内容例〉



(5) 平成24年度調査研究委員会の開催（年3回）

◆地域交通安全マップ指導マニュアルづくりについて

	日時・場所	協議内容
第1回	7月31日（火） 15:00～17:00 市民会館うらわ	昨年度の事業報告並び本年度実施内容の検討 ・地域交通安全マップ指導マニュアルの検討 ・その他
第2回	10月19日（金） 15:00～17:00 市民会館うらわ	・地域交通安全マップ指導マニュアル検討
第3回	12月6日（木） 15:30～17:00 埼玉会館	・地域交通安全マップ指導マニュアル検討

(6) 事業の考察と課題

①自転車交通安全教室

園児や児童を対象に交通講話と自転車の実技体験を通じて安全意識を醸成する自転車教室をさいたま市と上尾市内の10ヶ所（点検含む）で実施した。

園児や児童にはこれまでの学んできたことの習慣化を図るため「ま（待つ）・み（見る）・む（無理をしない）・め（目立つ服装）・も（もしかして）」の合い言葉を指導のまとめに取り入れ、園児には自転車に慣れることや「3つの左」（左側から乗る、左側を走る、左側から降りる）とブレーキ、ヘルメット着用の定着化を図った。

本教室は保護者が子どもと一緒に考える良い機会であるため、今後はより多くの保護者に参加を促して行きたい。

②交通安全教育の授業研究会

昨年度に続き本年度も、さいたま市内のもモデル校3校で「新たな安全教育指導プログラム」を活用した公開授業と研究協議を通して、本プログラムについての意見交換を行った。授業を担当された教師は小学校近隣の危険個所の画像や映像を取り入れ、児童がより学習効果を高められる身近な題材となる工夫も改訂を進める上で大変参考となった。

③自転車交通安全教育ソフトの活用方法について

改訂した「新たな安全教育指導プログラム」のデータとその応用編として危険予測学習用アニメーションの素材、自転車安全マップ作成ソフトが活用できるCDソフトについて、今後はその活用と検証をモデル学校に広げ、現場の教師に気軽に活用してもらえるよう内容の充実を図っていききたい。

④地域交通安全マップづくりのマニュアルについて

「地域交通安全マップづくり」は自分自身で交通事故の危険を予測する能力を身につけられ、地域ぐるみの安全対策にもつながる有効な指導方法である。なるべく多くの方が経験できるようなマニュアルを作製した。

この「地域交通安全マップづくり」を多くの方に周知し、各地域で安心して暮らせる安全な町づくりとして普及を図っていきたい。

⑤自転車指導の啓発活動「子ども掲示板」について

昨年度に続き本年度も、さいたま市・上尾市のそれぞれの小学校新3年生に交通安全の自転車啓発活動として配布。「まつ」「みる」「とまる」「たしかめる」を習慣化するための普及に努める。

自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト
報 告 書

発行 平成25年3月
一般財団法人日本交通安全教育普及協会
〒106-0031
東京都港区西麻布3-24-20
TEL 03-3478-1831 (代)
FAX 03-3478-1835
